

特別研修

月例研究会 議事録 (12 月)

2010 年度第 11 回

報告題名 「中国内モンゴルにおける持続的酪農経営の展開条件に関する研究」	
報告者 斯欽孟和 (所属分野) 農業経営経済学分野	日時 12月9日 午後3時～ 場所 第2講義室
座長 八木	議事録担当者 山口
出席者 長谷部、小山田、米倉、冬木、伊藤、高篠、韓、Deffi、大友、スチン、八木、宮本、佐々木、水木、宮里、渡邊、易思、威廉、王、金(詰)、滝田、覃、中村、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金(銀)、黄、片山、佐々木(彩)、佐藤(良)、澤田、柴田、千葉、八鍬	
報告要旨 近年、中国では生乳・乳製品の需要が増加し、内モンゴル地域でも酪農経営の規模拡大が続いている。しかし、零細で経済的余裕がない内モンゴル地域の酪農経営では、どのように発展していくかが大きな課題になっている。 そのため本報告では、既往研究、報告資料、修士論文を基に、内モンゴル酪農経営の概要、発展過程を整理し、小規模酪農を再構築(再編)することで規模拡大を目指した政府の支援策の課題を検討する。そして、内モンゴル自治区のフフホト市、フルンボイル市の酪農経営の基礎データを取り上げ、その優良な事例を対象に行う調査の目的と調査手法を決定する。また、「大規模酪農牧場」、「農家自発的酪農専業合作社」、「企業参入型酪農専業合作社」の三つのモデルを持続的酪農経営条件として比較的検討することで、この三つのモデルの短所と長所を明らかにするとともに、今後の研究方向を報告する。	

質疑・応答

(八木)・3つのモデルとして大規模酪農家 (A)、農家自発的酪農專業合作社 (B)、企業参入型酪農專業合作社 (C) を選んでいるが、なぜ、この3つのモデルが重要だと思ったのか。

・経営の育成が急務とあるが発展していない要因は何か。

(スチン) 乳製品の消費需要が増加し、また、小規模酪農家が多いなどの問題点から3つのモデルを選びました。農家自発的酪農專業合作社の場合は人民公社の失敗、法律的保護が少ないということが要因と考えます。

(長谷部) スライド 5 について、持続的酪農経営とは、自給飼料を基本に、飼養頭数を制限した上で、規模拡大出来るとあるが、自給飼料の供給も規模拡大出来るということか。

(スチン) はい、そうです。

(長谷部) 現状では自給飼料の供給に対しては規模拡大出来る余地があるという前提ですか。

(スチン) はい、そうです。全体ではかなりあります。

(長谷部) 自給飼料の供給に対して規模拡大出来る余地がなくなったならどうなるのか。

(スチン) 技術革新により、さらに生産の増加が考えられる。また、経済発展により飼料の輸入が考えられる。

(長谷部) 経営モデルとして3つを想定しているが、スチンさんの予測としては調査する上でどのモデルが良いと考えているか。

(スチン) まだ、考えていません。調査の結果、長所と短所が導き出されると考えています。

(米倉) 基本的なテーマは3つの経営方式を明らかにするというのがテーマなのですか。そういう点で話を聞いていると、みんな条件が変わってしまうと、なんでもありと聞こえる。議論が拡散してしまい、よくわからない。3つのモデルがあるとして、それぞれが今の現状の中では、条件を固定して内モンゴルの状況の中で経済的、土地、環境といった諸条件の中で A、B、C の中どれが一番良いのか、どれが一番有利な立場にあるのかといったことをはっきり言って頂くとわかりやすくなる。それで、酪農家の所得の水準を豊かにしたいわけですよね。

(スチン) はい

(米倉) そうすると将来的に条件を変える必要がある。豊かにするためには、どのような条件を変えることが一番重要なのかということが、プライオリティをはっきりさせるとわかりやすい。そうなったときに A、B、C という経営方式というのは、どこが一番強くなるのかということがわかるとわかった気がする。

(スチン) わかりました。

(米倉) 3つのモデルということでしたが、A というのは個別に出荷するのですか。それとも出荷組合のようなものがあるのか。

(スチン) 今の段階では個別的に出荷しています。

(米倉) それでなおかつ共同で合作社として出荷をする。A と B との間には生産過程は個別だけでも出荷は共同で行うことはありえるのですね。

(スチン) はい、そうです。

(米倉) A、B、C だけではなくいろいろなバリエーションがあるのではないか。そういった検討はもう少し必要なのではないか。それから C の企業参入專業合作社は、ようするに直営牧場をやるわけですよね。企業直営の合作ではないか。参入というと農業がのこっているかということ、そうではない。全部企業化してしまうわけでしょ。

(スチン) スライド 7 の「中華人民共和国農民專業合作社法」実施により出資の 8 割は農家という規定があり、全部企業化することはない。

(米倉) C としては企業の経営の形態はまったく牧場直営としての理解でいいわけですね。

(スチン) はい

(米倉) 名前の呼び方として、企業直営型の酪農專業合作社でいいのではないか。そのほうが意味としてはわかりやすい。

(スチン) はい

(米倉) 最初は環境がテーマだったわけですね。

(スチン) 環境問題を研究していました。

(米倉) 経営形態が選択されるにあたって、将来的に見ると環境制約が一番大きい。環境問題をうまく位置づけながら、経営の問題も研究する方が良いのではないか。

(スチン) 環境と経営の両面において持続的発展を考えなければならない。

ありがとうございました。